

令和元年度（2019年度）

自己評価報告書

学校法人福岡保健学院
武雄看護リハビリテーション学校
理学療法学科

本報告書は、学校法人福岡保健学院 武雄看護リハビリテーション学校の自己評価結果を記したものである。

評価対象期間 2019年4月1日～2020年3月31日

令和2年7月31日

学校長 太田 貞武

学校評価実施責任者

副学校長 橋本 勝彦（令和元年度）

1. 自己評価の概要と実施状況

1) 自己評価の目的、方針

- ①教職員が自己評価を行う中で、学生教育ならびに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ②自己評価の妥当性を学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。
- ③自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。
- ④ 自己評価は本校の学校評価実施規程に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

2) 自己評価委員会委員

委員氏名	所 属
太田 貞武	武雄看護リハビリテーション学校 学校長
橋本 勝彦	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 副学校長
野村 晋広	武雄看護リハビリテーション学校 事務長
山本 裕宣	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 教務部長
秋山 嘉和	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 教務副主任
山崎 めぐみ	武雄看護リハビリテーション学校 事務主任

3) 自己評価方法

令和元年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目Ⅰ～項目Ⅹの内容について、教職員個人による自己評価・自己点検の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性についての検討を行い、学校関係者評価結果と併せて、健全な学校運営に役立てる。

2. 自己評価の内容

1) 評価基準

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評価基準にて実施する。

S:十分に達成している。(達成度が高い)

A:達成している。(概ね達成しており、明らかな改善は要しない)

B:達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)

C:達成が不十分である。(不適合がある、明らかに改善を要する)

2) 自己評価の内容

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

項目Ⅱ 学校運営

項目Ⅲ 教育活動

項目Ⅳ 学修成果

項目Ⅴ 学生支援

項目Ⅵ 教育環境

項目Ⅶ 学生の受け入れ

項目Ⅷ 財務

項目Ⅸ 法令等の遵守

項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

本校の教育理念は『人間愛と自己実現』であり、「人間の根本精神をあげ、一人一人の学生が人間愛の精神に基づき、対象を深く理解し、受け入れ、専門的な知識、技術、態度を身につけることができるような人材育成を目指す。さらに理学療法分野の専門性の追求のみならず、一生を通じて人格向上の努力を続け、自己実現していくような人を育てていく」としている。これは、法人全体で統一されたものである。

また、学校のスローガンとして「夢叶う ころ豊かな医療人になるために」を掲げ人材育成の大きな方向性を示している。

教育理念は、学生・教職員に周知させるため、玄関に掲げるとともに、常に学生が目にする学生便覧に明記している。学生便覧等にはどのような学生を育てたいのか教育理念を基に教育目的、教育目標を明文化しており、実際の教育内容・方法に一貫して現れている。学科教育目標は学年ごと段階的に表現しており、学生も教員も教育理念・教育目標を常に指針として意識し、到達レベルがわかりやすくなっていることから、カリキュラム全体の目指すものに向かって進んでいく手立てになっている。また、「期待する卒業生像」を明確にしているのが具体的にイメージしやすいと考える。以上は、学生便覧等に明記するとともに、保護者会やオープンキャンパス、高校訪問等において説明している。

課題

地域、関係業界より信頼され、職員が誇りを持って職務に専念できるよう、理念・教育方針を機会あるごとに周知する。引き続き業界ニーズの把握に努め、教育内容の見直しをしていく必要がある。

今後の方向性、方策など

教育理念、教育目的・目標、人材育成像に加え、何のために働くのかということについても、始業式や終業式、ホームルームなど機会をとらえて周知をおこなっていく。

小項目 Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載の通り定められている。

小項目 I-2

学校の理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界（高校、病院、実習施設など）に周知されているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載の通り周知されている。

小項目 I-3

各学科の教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価: S

■コメント

変化する社会の中でそのニーズがどのように変化していくのか情報をとり、未来に必要となる資質や能力をどのように養っていくのかを常に検討している。

項目 II 学校運営**総括**

設置者の学校設立の意思のもと、年度ごとに学校法人の方針を受け、リハビリテーション学校 5 校の教育事業方針、重点目標が設定される。また、学校としての教育方針が学校長より示され、それらを受け、学科ごとに管理目標を掲げ、個人目標を設定し、計画立案、実施、評価（中間・年度末）を行っている。

個人に関しては前期・後期の評価終了後に役職者との面談を実施している。

学校教育における運営方針・計画について設置者・管理者・教職員の意思統一が図れており、学校運営会議・管理会議が意思決定会議として位置付けられ、最終的な意思決定がなされている。

情報システムについては、学事サーバーにて学事に関する情報管理を行い、業務の効率化を図っている。校内では共有フォルダを一括管理し、必要な資料やマニュアル等は活用できるようになっている。情報管理に関して、これまで問題は発生していないが、危機対応についてはマニュアルが作成されている。また、関連学校・病院のTV会議システムを整備し、時間の効率が図られている。

課題

情報セキュリティに関しては、マニュアルがあるだけでは不安があるので、機会あるごとに、日々の関わりの中で注意喚起を続ける必要がある。

今後の方向性、方策など

情報セキュリティについて、全職員の共通理解の基、漏えい防止を徹底するために、教職員への教育を実施する。

小項目 II-1

目的等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: A

■コメント

本校の教育・運営方針は、学校長より毎年 4 月に全職員へ伝えられ、周知されている。

小項目 II-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価: A

■コメント

学生便覧の学則、運営組織図、委員会組織図に示されている。

小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

情報セキュリティの強化に取り組む必要あり。

項目 III 教育活動**総括**

教育課程の編成方針、実施方針に関しては、教育理念の基、指定規則に従いグループ学校のカリキュラム委員会、運営委員会で決められている。

キャリア教育に関しては、1 年次より段階的にスキルアップできるようグループ学校統一のカリキュラムが組まれている。臨床実習についても、5 校全体で委員会を設け、各校や各実習

施設からの意見を取り入れながら、常に改善を図っている。

授業評価に関しては、学生に授業評価アンケートを各期授業終了時に実施し、教科担当者の振り返りに使用している。また、教員間での講義視察およびフィードバックを実施した。

資格取得の指導体制(国家試験対策)については、1年次より計画的に実施している。3年次には、セミナーや個別指導も実施している。国家試験対策については、毎年振り返りを行い、修正を加えながら充実を図っている。

今年度も、早期に低学力者を把握し、少人数や個別対応など低学力者の学習強化を図った。全国模試の成績や各教員からの学生状況報告をもとに、国家試験対策計画を適宜、微調整し、より最適なものにしながらか対策を進めることができた。

教員の研修に関しては、グループ主催の研修会や職能団体主催の研修会などに参加した。

課題

内部教員の授業については十分な振り返りが行えていたが、非常勤講師へのフィードバックが不十分であった。

今後の方向性、方策など

非常勤講師に対しても授業評価の実施について説明と同意を得て、授業評価アンケートを活用していただく。

小項目 Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載の通りである。

小項目 Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載の通りである。

小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A

■コメント

非常勤講師へも授業評価アンケート結果を活用していただくようにする。

小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: S

■コメント

資格取得の指導体制(国家試験対策)は、カリキュラム内・外で、1年次より計画的に実施している。今後もさらにブラッシュアップを図り指導体制の強化を行なう。

小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

今後も積極的に学会・研修会等へ参加していく。

項目Ⅳ 学修成果

総括

就職に関しては、これまで1期生から7期生まで7年連続100%を達成している。今年度も早期100%達成を目指して支援を取り組んできた(内容はⅤ. 学生支援の欄を参照)。卒業前の2月14日に3年生39名全員が内定をいただいた。

今年度の本校の国家試験対策については、昨年度全員合格を達成した国家試験対策の更なる充実をはかり、細かい箇所での修正を行ないながら実施した。3月24日の第55回理学療法士国家試験の合格発表では、昨年同様、3年生39名全員が国家試験を受験し、39名全員が国家試験に合格をすることができた(2年連続100%を達成した)(取り組み内容はⅢ. 教育活動の欄を参照)

退学率の低減のために、①～⑥のような支援を実施してきたが、残念ながら、2年生に1名の退学者が出てしまった。しかし、その他の学生については全員を進級・卒業させることがで

きた。

支援内容「①定期的な面談、②学生状況の早期把握と教員間の情報共有、③気になる学生に対する早期面談、④校内カウンセラーによるカウンセリング、⑤保護者との電話連絡や面談、⑥低学力者の早期把握と学習支援。」

ボランティア活動、地域清掃、市民討論会等の参加状況等、在校生の活動は把握している。

課題

国家試験合格率 100%を継続する。退学者0を目指す。

今後の方向性、方策など

今後もきめ細やかな学生対応を実施し、上記課題の達成を目指す。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S

■コメント

対策は十分に図っているが、見直しは行っていく。

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: S

■コメント

対策は十分に図っているが、今後もさらにレベルアップを目指す。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: S

■コメント

対策も十分に行い、退学者も少ない状態であるが、退学者0を目指し、今後も努力を重ねていく。

小項目 IV-4

在校生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: S

■コメント

今後も学生の活動状況を把握し、記録していく。

小項目 IV-5

卒業生の社会的な活躍を把握し、教育活動の改善に活用されているか。

■自己評価: S

■コメント

卒業後も学生の活動状況を把握し、学内教育に活かしていく。

項目 V 学生支援

総括

【進路・就職支援】

就職セミナー、マナー講座、関連病院見学、就職説明会、履歴書作成指導、面接指導を実施するとともに、就職活動状況を随時把握し、情報共有を図り指導に役立てている。関連病院では、グループ校を優先した就職試験が実施され連携が図られている。

【学生相談および保護者との連携】

日頃より、学科教員全員が学生に声をかけコミュニケーションをとるように心掛けている。

担任制をとっており、定期面談や、必要に応じ随時面談を実施し、積極的に学生からの相談を受けている。また、必要に応じ役職者を交えた面談も実施している。校内カウンセラーを配置し、学生の希望によりカウンセリングが実施されている。学科内で学生の情報共有を図り、学生に関わっている。また、管理会議での両学科の学生情報共有も行っている。成績や生活面で気になる学生に関しては、早期に保護者へ連絡を行うとともに、必要に応じて保護者面談も実施し家庭と情報を共有している。定期的に保護者会も実施している。

【高専連携】

キャリア教育、ふれあい看護体験の受け入れを行い、職業についての説明、体験、学内見学等を実施した。また、高校での職業ガイダンス、高校の進路指導室への訪問等で情報提供を実施した。

【修学支援】

早期入学者に対する初年度授業料減免制度、家族入学割引制度、特待生減免制度、災害被災に伴う学資支援制度がある。また、学生寮、駐車場を完備することで学生の経済的負担を軽減している。

課題

今後も学生支援、高専連携を強化していく必要がある。

今後の方向性、方策など

今後も信頼される学校づくりを行い、高校訪問等で情報交換を行い、さらに高専連携を図っていく。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載している通り支援体制は整備されている。今後も継続して支援していく。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

学生相談に関する体制は十分に整備されている。今後も学生目線でしっかり支援していく。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総括に記載の通り、保護者会の実施や早期の保護者への連絡や面談などを実施し連携を行っており、今後も継続していく。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載の通り高専連携を実施している。今後もさらなる連携強化を図っていく。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S

■コメント

専門実践教育訓練給付金・教育訓練支援給付金制度の対象学科であり、社会人にとって大きな修学支援となる。

項目 VI 教育環境**総括**

施設・設備・機器・備品・図書等は設置基準、関係法令に適合し、学習効果を向上させるためにプラス α で揃えている。今年度の新生が入りが 45 名だったので、ベッドなどの物品の補充を行ない、学習環境を整備した。

最新の知見を得るために、新刊図書や専門雑誌の購入を行なった。卒業生に図書室・情報処理室を提供し、卒業後も個々のスキルアップのために活用している。

臨床実習、生活機能演習、対人関係演習などカリキュラム内の科目に関する実習施設は十分に確保されている。教育体制(実習指導体制)については、グループ学校 5 校と関連病院との連携が十分にとれ、本校においても教員が実習訪問し、指導者との調整や学生指導を実施している。

防災マニュアルを作成し、年に 2 回消防訓練を実施している。

課題

指定規則改定や日々進歩する医療事情に対応できるよう、さらに充実を図っていく必要がある。

今後の方向性、方策など

毎年、計画的に購入計画や導入計画を立て充実を図っていく。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

施設・設備・機器・備品・図書等は設置基準、関係法令に適合し、学習効果を向上させるためにプラス α で揃えているが、今後もさらに充実を図っていく。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: S

■コメント

今後も実習施設と密な連携をとり、実習施設の指導者とともに学生を支援していく。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

マニュアルを活用するとともに、今後も消防訓練等を継続していく。

項目VII 学生の受け入れ、募集

総括

学校パンフレットやホームページ、オープンキャンパス・学校説明会での情報提供以外に、進路ガイダンスや高校単位での本校見学会・体験授業などの際に、本校の教育方針、資格取得や就職状況など正確に情報提供している。

課題

少子化、高校再編等が進む中、さらなる努力が必要になる。

今後の方向性、方策など

今後も高校・地域から認められる学校をめざし学校運営を行っていくとともに、学校の情報を正確に伝えていく努力を続けていく。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: S

■コメント

パンフレットやホームページ、高校訪問、ガイダンス、上級学校見学等の受け入れなどで情報提供を実施している。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

国家試験合格率だけでなく、進級率についても正確に伝えることができている。

項目VIII 財務

総括

事業計画に基づき予算が計上され、適切な運営がなされている。財務は法人本部と各学校の財務の二重体制をとっており、学校の財務体制管理が行われている。また、決算及び予算について理事会で承認されており、会計監査は適正に実施されている。事業計画に沿って、また両学科との調整を図ったうえで、予算計画を立て運営している。経理より年度の中間と年末に副学校長・事務担当者に収支計算書の提示がある。収支状況を把握し、日々の業務の中で業務改善できるものがないかを検討している。

課題

全教職員へも学校経営に関する意識付けを行うためにも、財務に関する情報を伝えていく。

今後の方向性、方策など

中間・年度末の2回、学校長、事務長、両学科副学校長、経理担当者で確認を行うとともに全職員へも周知させる。

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学校単独では規模の小さな学校ではあるが、ここ数年定員が確保され安定した財政となっている。また、当学校法人においても財政基盤は安定している。

小項目 Ⅷ-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S

■コメント

本校単独の予算・収支計画に関しても、両学科・事務と協議し、さらに法人に了承を得たうえで予算の執行し、有効かつ妥当なものとなっている。今後もこれを継続していく。

小項目 Ⅷ-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S

■コメント

総評に記載されている通り会計監査を実施しており、今後も継続していく。

項目Ⅸ 法令等の遵守

総括

法令遵守は、法人全体で取り組まれている。本校においても、①学校基礎調査②専修学校各種学校評価③学校施設認定規則に基づく報告を毎年行い、法令を遵守している。

個人情報保護に関しては法人全体の規定を設けており、教職員及び外部講師、学生が遵守すべき事項が定められている。臨床実習における学生の個人情報保護については、SNS の取り扱いも含め指導を徹底している。

課題

本校ではこれまで問題は起こっていないが、社会では SNS での情報漏えい、不適切動画の掲載などが問題となっているため、今後も教育を継続していく必要がある。

今後の方向性、方策など

学生に対する SNS に関する教育、教員・学生に対する個人情報保護に関する教育を毎年実施していく。

小項目 Ⅸ-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S

■コメント

法令や設置基準を遵守しており、今後も継続する。

小項目 Ⅸ-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S

■コメント

個人情報の管理に関する学生・職員教育を今後も継続していく。

項目Ⅹ 社会貢献・地域貢献

総括

地域の高校や専門職業団体等に施設を貸し出し、貢献している。

また、本校はボランティア活動を推奨しており、地域の清掃活動や、障害者支援、武雄市の行事に学生や教職員が積極的に参加している。

課題

期末試験や実習等の重要な学事に重ならない程度にボランティアを増やす。

今後の方向性、方策など

地域と連携を図りながら、地域のボランティア情報を入手するとともに、学校独自でも地域の清掃活動など継続していく。

小項目 Ⅹ-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: S

■コメント

今後も地域や高校などと連携を図り、社会貢献、地域貢献を行っていく。

小項目 Ⅹ-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: S

■コメント

今後も学校として、情報収集や参加者へのクオカードのプレゼントなどを実施し、学生のボランティア活動を推奨していく。